

# 適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、五ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時三十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受験番号と氏名を問題用紙・解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

西武学園文理中学校

受 験 番 号	氏 名

問題は次のページからです。

1 文章1 と 文章2 を読み、あとの問題に答えなさい。

(※印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。)

### 文章1

僕ぼくがここで探究ぼくしたいのは、未知の領域を探検するタイプのことなのです。改めていえば問いはこうです。

どうしたら本当の知能といえる※人工知能をつくれるか？

こう言った途端とたんにいろいろな疑問が湧わいてきます。「本当の知能」ってなんだろう。いや、そもそも「知能」ってなんだろう。それを「人工」的につくるって、一体全体どういうことなんだろう、そんなことできるのかな……。

もう一度申し上げましょう。僕自身もまだ答えを持っていません。そしていまのところたぶん地球上の誰だれも答えを持っていません。でも、今度はさつきよりちよつと違ちがう受けとめ方をしてもらえませんか（そうだったら嬉うれしいな）。そうです。すでに誰かが答えを見つけておいてく

れたことならそれを学べばよいわけですが、まだ誰も答えを持っていない問題については、分からないからこそ楽しいし、分からないからこそ探りたくなります。先ほど「探検」という言葉を使いました。「冒険ぼうけん」といつてもよいですね。冒険とは「危険を冒す」ことです。危険といつても、人類を滅亡させようとする人工知能ができてしまう危険とか、そういうものではありません。まだよく分からないことを探究するので、たくさんの間違いや思い違いをおかしてしまう危険です。失敗する危険です。

学校では、たいていの場合、間違えると叱しかられます。授業中に先生の質問に答えられなければ叱られるし、テストで正しい答えを出せないとバツをつけられます。だから、長年（小中高なら一二年くらい！）そういうふうを考える習慣が身についてしまうと、間違えたり失敗したりすることは、なんだか悪いことのように感じられるかもしれません。でもそれは、※既知きちのこと、すでに分かっている知識についての話です。未知のことについてはそんなふうを考える必要はありません。むしろ試行しこう錯誤さくごや失敗上等です。

「ここでこんな言葉をしょうかいご紹介しておきましょう。物理学の世界で※量子論という考え方をはじめた※ニールス・ボーアがこんなことを言っています。いわく、せんもんか専門家とは、ある限られた領域になかで考えうる限りのあらゆる失敗を経験している者のことだ、と。

どういう意味でしょうか。科学者というと、なんだか宇宙や自然について、きちつと正しい知識を持っている人というイメージかもしれませんが、実はそれは科学者の一面です。むしろ重要なのは、ボーアが述べたように、実験や試行のなかでたくさんさんの失敗をおかして、「これはうまくいかない」ということを自分で確認していることなのです。なにしろ自分で失敗した経験がありますから、次からはその失敗を自覚して避さけることもできます。

**④人工知能をつくる場合にもボーアの精神で取り組む必要があります。**  
つまり、試行錯誤を恐れず、失敗上等の気持ちで実験をすることです。これから先は、本物の知能をもっているといえる人工知能をつくるために、その答えを求めて試行錯誤の旅に出たいと思います。

みやげよういちろう やまもとたかみつ  
(三宅陽一郎／山本貴光『高校生のためのゲームで考える人工知能』に  
よる)

〔注〕人工知能——言葉の意味や推測をコンピューターに行わせる技術のこと。

既知——すでに知っていること  
量子論——物理学の一分野  
ニールス・ボーア——デンマークの物理学者

## 文章2

日本を含む七か国の十三〜二十九歳の若者を対象にした内閣府の意識調査があります。日本の若者たちは「自分自身に満足している」に対して「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したのが、四十五・八%で七か国中最低、「自分には長所がある」も六十八・九%で最低です。

こうした日本の若者たちの好ましくないデータについて、専門家の中には「日本人は控えめで、※謙譲の美德があるから自己※肯定感の数字が低く出てしまう」という分析をする人もいます。そうした見解は、確かに一面の真実を言い当てているのでしょう。日本人は自己主張が苦手で、国民性を表すジョークでも「国際会議の議長にとって最も難しい仕事は、インド人の発言を※抑制することと日本人の発言を促すことだ」なんて言われたりもします。

しかし、私はこの数値には別の問題が潜んでいる気がしてなりません。もしかすると、若者たちは、本当は自己評価が低いのではなく、「日本社会で生きていくには、自己肯定感を低く保っておいた方が何かと都合がよい」と感じているのではないのでしょうか。

日本という社会は、諸外国に比べてチャレンジしようとする人に冷淡で、失敗にも※不寛容だと言われます。問題を起こした会社の経営陣が、記者会見の席でそろって頭を下げるのはおなじみの光景です。うまくいった時も、喜びを前面に出すより控えめにしておいた方が、失敗した時に周囲から叩かれられないのではないか。そんな本音が見え隠れします。その態度をさらに押し進めれば、「自分はつまらぬ人間だ」と思い込んでおいた方が、何かあった時に大きなダメージを受けずにすむという発想につながっていきます。「※謙遜社会」と言えば聞こえはよいですが、**誰**もが自己防衛にきゅうきゅうとしている姿が、数値にも反映されてはいないのでしょうか。

小さなことで言えば、子どもが転びそうになった時に、すぐに手を差し伸べて未然に防いでしまうのも、「失敗してはいけない」というシグナルを送ることに一役買っているのでしょう。大きなけがをしない程度なら、本当は転んで学ぶこともたくさんあるはずです。

知り合いの小学校の先生が幼稚園を訪れた時の体験談を語ってくれたことがあります。園児が教室でつまずいて転びそうになったので、とっさに抱きかかえようとしたそうです。周りを見ると、幼稚園の※教諭は、

園児を支えようとするのではなく、机の角を手で押さえていたそうです。

この幼稚園の教諭たちは園児が転ぶことは織り込みずみで、転ぶことも経験の一環いっかんと考えている。その上で、子どもたちが大げがをしないように対処していることに気づかされ、先生は「教育者でありながら、それが見えていない自分が恥ずかしかった」と頭をかいていらつしやいました。

「縮こまっていた方が無難ぶなん」という社会や周囲の空気を敏感びんかんに感じ取り、主体性から遠のいてしまう若者がいるならば、映し鏡としての大人の姿こそが問われるべきなのかもしれません。

(名古屋隆彦『質問する、問い返す 主体的に学ぶということ』による)

〔注〕 謙譲——へりくだること

肯定感——価値があると思う感覚

抑制——いきおいがあるものをおさえること

不寛容——欠点などに厳しいようす

謙遜——へりくだること

教諭——先生、教師

〔問題1〕 傍線部ア「人工知能をつくる場合にもボーア」の精神で取り

組む必要があります」とありますが、なぜですか。〔文章1〕の中の言葉を使い、二〇〇～四〇〇字で書きなさい。( )、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。

〔問題2〕 傍線部イ「誰もが自己防衛にきゅうきゅうとしている」と

ありますが、それはなぜですか。〔文章2〕の中の言葉を使い、解答らんに合わせて書きなさい。( )、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。

〔問題3〕 あなたは、これから中学校生活や日常生活の中で、何を大事にし、どのように行動していこうと思いますか。〔文章1〕と

〔文章2〕、それぞれの内容に関連づけて、四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と下の「きまり」にしたがうこと。

条件 次の三段落構成にすること。

- ① 第一段落で、〔文章1〕と〔文章2〕、それぞれの要点をまとめること。

② 第二段落には、「①」をふまえ、中学生になってから頑張りたいことを書くこと。

③ 第三段落には、「②」をふまえ、自分の行動を具体的に書くこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話を入れる場合も行をかえてはいけません。
- 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と同じます目に書きます。(ます目の下に書いてもかまいません。)
- 。と「が続く場合には、同じます目に書いてもかまいません。この場合、。」で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのます目は、字数として数えません。